ザ・グロスマン

財前太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ザ・グロスマン

【Ｎコード】
Ｎ２９３９Ａ

【作者名】
財前太郎

【あらすじ】
完結作「グロスマン」の続編！現代版兼好法師、再び現る！！

大甲子園劇場（1）

「ピッチャー福田……甲子園への……」

福田は、大きく振りかぶった。

ボールは、轟音と共にグローブへめり込んだ。

「……ストラーイクッ！バッターアウト！成滝高校、甲子園への切符を手にしました！」

歓声と共に、カメラのフラッシュが、福田をバッと囲んだ。

報道陣が福田に駆け寄り、マイクを押し当てた。

「ノーヒット・ノーランで甲子園！！おめでとうございます」

「ありがとうございます」

と福田は短く呟くと、監督の下へ駆け寄り、もう一度報道陣の方を見た。

「報道陣の皆さん！高校野球優勝旗を、持って帰ってきますね！」

その瞬間、フラッシュが場内を明るく照らした。

顔立ちの良い福田は、女性のファンからも人気があり、名投手としての人気もある。

しかし、調子にのりやすい。

今は、彼の絶頂期である。一番、良い時期だろう。

そんな福田も、県予選の度重なる緊張に疲れたか、報道陣を避け、仲間3人と宿泊先のホテルからコンビニへ向かおうとしていた。

部屋を出て、ロビーに向かった時。

白いマスクの怪しい男が、新聞を黙々と読んでいる。

福田は、ぞっとした。その男が、まるで自分を見ているように感じたからだ。

マスクは、微笑み顔で不気味である。深く彫り込まれたマスクの奥に、輝く瞳は見えない。

（あいつ……喧嘩うってうる……）
と福田は思い、マスクの男に近寄っていった。
取り巻きの３人は
「えっ…あっ…おい、福田ぁ……」
と呟いて、怖ず怖ずついていった。
福田は男の前に大きく進み出た。
「俺のサインが欲しいのかい？」
「……いいや」
「じゃぁ、何が言いたい？」
マスクの男は、静かに呟いた。
「お前みたいな奴のサインなど、いらんよ」

福田の顔はカーッと赤くなり、拳を握りしめた。
「てってめぇ……表へ出ろ！ぶん殴ってやるッ！」
と血管を浮きだたせたが、男は冷静に
「先に出てろ。１００年後に行ってやる」
と答えた。ついに福田の怒りは爆発した。

「貴様！俺はなぁ、成滝高校のピッチャーだぞ！てめぇ、俺の球が打てるのか！？」
「簡単さ。お前は力づくで球を投げているからな」
男は軽々しく返した。もう福田は止められない状態となった。
「てってめぇ！野球勝負だ！外に出ろっ！」

２人と、福田の取り巻き3人は、近くの広場へ向かった。

大甲子園劇場（2）

（なぁに、俺の球が打てるわけがない……）
福田はそう思っていたが、取り巻きの三人はめっぽう弱気で
「福田ぁ……何も映画みたいに対決しなくても……」
とぶつぶつ言っている。その言葉は、福田にとって忌々しかった。

福田とマスクの男は、グラウンドに立った。
福田がボールを握り、男はバットを握っている。
「よしっ！いくぞっ！」
福田は大きく構えた。胸をピっと張っている。
しかし、いつもと違う。
男から殺気が感じられたからだ。
（くっそう……投げにく……）
だが、成滝高校のピッチャーとしてのメンツがあった。

ゆっくりと振りかぶる。
取り巻き達ののど仏が唸る。

ビシュッ

ストレートど真ん中。しかし、男は振らなかった。
第2球目。
素早く振りかぶった。

ドシュッ

ストライク。男は振らずに、微笑した。
第3球目。
更に強くなる男の殺気に、福田は意識を失い掛けた。
（うんぬ……ちっきしょう……ちからづくで……）
大きく振りかぶった。

男は微笑んだ。

球は大きな弧をえがき、空の向こうへかき消えた。

福田は、言葉が出なかった。
一方マスクの男は、微笑みながら福田に近づいた。
「力で封じ込めようとしたからさ！今は抑えられても、そのうち肩にガタがきて、投げられなくなるさっ」
男は空を見上げた。
「この世で幸せになる奴は、どんな奴か知ってるか？」
「知らない……」
「バカだから仕方がないが……まぁこれだけは教えてやるよ！」
空にやっていた目が、地に降りてきた。

「幸せを掴む奴は……頭の良いヤツさ……」

大甲子園劇場（3）

「この世の法律を作っているのは誰だ！？」
「……政治家だろ」
「政治家はバカか、頭が良いか？」
「……そりゃ良いだろ」
フンと男は微笑んだ。
「この世は、すべて頭の良いヤツに都合の良いようにつくられてんだ。ようは……」
福田は欲求不満な顔をした。

「野球バカは必要ないんだ……お前みたいな……」
なんだとっと、福田は声を上げた。
自分を侮辱されたのだから。
「ふざけんな！ちっと野球が上手いからって、てめぇ……」
「ついさっきまでの、お前みたいにな！」
くっと、福田は何も言えなくなった。
男の言葉には、一つ一つに重みがあった。
「……どうせなぁ、野球なんて、肩こわせば終わりなんだ。そんなことしたるより、勉強しろ！もっと……勉強しろ！」
「うるせぇっ！」
と福田は叫び、駆け逃げて行った。

高く鳴り響くファンファーレと共に、高校野球本戦は始まった。
成滝高校はのピッチャーは、福田だった。

福田は、ノーヒット・ノーランに、本戦でも挑んでいた。
９回裏。敵は昨年の優勝校。

福田の頭には、男の言葉が木霊していた。
（野球なんて、肩をこわせば終わりなんだ……）
確かに、肩にガタがきていた。

あぁ、なんという力。
福田は、いつの間にか、大きく振りかぶっていた。

ぐはっ！

「ストラーイクッ！バッターアウト！」
一瞬の栄冠もつかの間、福田はそのまま倒れ込んだ。

監督にかつがれながら、福田はマスコミの中を切り抜けた。
と、その中に、例のマスクの男がいるのを見つけた。
福田は彼の前を通りすぎようとした時
「貴方の名前は……なんですか？」
と呟いた。
男は静かに答えた。
「……グロスマン……」

大甲子園劇場（3）（後書き）

「グロスマン」が再登場します。
ところで、なぜ、「グロスマン」の連載を終了させたか。これには大きな理由があるのです。
（次回へ続く）

じゃじゃ馬娘

「邪魔だ！どけよ！」
２７歳・独身。婦警（現在ではあまり使わない言葉だが……）である。
顔立ちは、１０人中１０人がうなづくほど、良い。
しかしこの女、とにかく態度が、でかい。
この大きく出た態度には、男達も怯えるほどであった。
しかし、女性からは人望が厚く、この女の仲間は増える一方であった。
名前は、伊東（みえこ）美枝子という。巡査である。

美枝子は、いつも通りにパトロールしていた。
「今日も駐車違反が多いなぁ……」
彼女の口癖である。これは警察全体が迷惑していることだ。
しかし、警察の収入とも言える。

少し困り顔の美枝子の耳に、突然叫び声が入ってきた。
「きやぁぁぁぁぁぁっ！」
なんだっと、美枝子は後ろを見た。
そこには、崩れ落ちる女性の姿があった。
そして、その女性を飛び越えて逃げる男がいた。
包丁を持っている。

美枝子は、混乱した。
次の行動が、自分でも分からない。
しかし、考えている間に、犯人は自分の方へと近づいてくる。
（あぁ……どうしよう！！）

とっさに、銃を抜いた。
しかし、撃てない。撃つ勇気がない。
（だめ……）

その瞬間、美枝子は、犯人に向けて「とまれ」と言った。
包丁を振りかざす男に対して、彼女は銃を向け続けた。
「やっ……やめなさい……包丁を……置きなさい……」
しかし、男は
「ぎえええぇ、げへっ…げへっ…」
と声を上げ、美枝子に取っ組んだ。
「きゃぁっ！」
美枝子は、易々と拳銃を取り上げられてしまった。

男は、狂喜している。
「げへっ、げへっ！」
美枝子は今まで、男などパンチ一つで倒せると思っていた。しかし、今この有様である。
生まれ持った異性という壁を、越えることはできなかった……」

（撃たれる……）
諦めた。その時、
「うおっ！」
大声と共に、犯人にマスクの男がとっついた。
グロスマンである。
犯人を投げ倒し、銃を握る手を強く蹴った。
そして顔面を殴り、首元を殴り気絶させた。

「おい、そこの婦警さん！」
「はっ……はい！」

美枝子は、びくびくと返事をした。
グロスマンは、落ち着いている。
「女が男に抵抗するなんて、１００年早いんだよ！もし、男に勝ちたいなら……」
グロスマンは、すっと後ろを見た。
「子供を産め！これは女にしかできないぜ！」
グロスマンを見つめる美枝子の目は、どこか意味ありげであった。

じゃじゃ馬娘（後書き）

私は、グロスマンを殺人鬼にしてしまった。
この小説がホラーじみているということもあるが、
グロスマンは決して殺人鬼ではなく
人々を諭す兼好法師であって欲しかったのだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2939a/

ザ・グロスマン

2010年10月11日17時56分発行